

# 『みんなの笑顔のために』

## 山太郎祭でボランティアガイド

11月20日（日）に開催された山太郎祭で、6年生が江田船山古墳などの史跡を案内するボランティアガイドを務めました。多くの方に参加していただき好評でした。中には、東京で小学校の先生をされている方も参加され、こどもたちの詳しい説明に大変感動されていたそうです。和水町の素晴らしい伝統文化を多くの人に伝えることができる菊水小学校の児童がたくさん育ってくれることを願っています。



『どんなに素晴らしい伝統や文化も、誰かが伝えなければ消えてなくなる。』

この言葉は、ある研修会に参加していたとき、県の文化課の職員の方が話された言葉です。和水町の素晴らしい伝統や文化も、だれかが後世に伝えていかなければ消えてしまうのです。その意味でも、今回の6年生の取り組みは大事な取り組みであると感じています。



実は私も、以前日本の伝統文化である古代の製鉄法『たら製鉄』を学校の授業に取り入れるかどうか迷っていた時がありました。その方法もよく分からず、大変そうだという思いもあり、取り組むことに踏み切れずにいました。その時に、この言葉に出会ったのです。

玉名荒尾地区は、県内でもたら製鉄の遺跡がたくさんあるところです。肥後三大製鉄遺跡群の二つ（小岱山製鉄遺跡群：荒尾市）（三の岳製鉄遺跡群：玉東町）があります。和水町でも、三加和地区の田中城跡近くにたら製鉄遺跡が見つかっています。しかし、地元の人もあまり知らないのが事実です。私はこの言葉に出会ったとき、「よし自分が『たら製鉄』の伝統文化を伝える人になろう。そして、こどもたちに伝えることで、こどもたちがまたその伝統文化を次の世代に伝えてくれるようになる。」と考え取組を決心しました。

『たら製鉄』とは、

千年以上の歴史を持つ、日本古来の製鉄法です。三加和の田中城跡近くで見つかった製鉄炉跡は平安時代後期のものと推測されています。

江田船山古墳から出土した銀象嵌銘大刀（ぎんぞうがんめいたち）もそうですが、日本の伝統文化である日本刀は、この「たら製鉄」でつくった鉄（玉鋼：たまはがね）からしかつくることができません。現在では、日本で一箇所（島根県の「日刀保たら」）でしかたら製鉄は行われていません。ここでつくられた玉鋼が全国約200名の刀鍛冶に分けられているそうです。



粘土で炉をつくり、炉の中に木炭を入れ燃焼させます。ふいごで炉の中に空気を送り温度を上げ、そこに砂鉄を入れます。木炭と砂鉄を交互に入れることを繰り返すのです。『たら製鉄』では、これを三日三晩続けます。ふいごで炉に空気を送る方法は時代と共に進化していきますが、これを三日三晩休まずに続けることは不可能です。だからこの仕事は交代で行っていました。『たら製鉄』では、ふいごの担当を「番子（ばんこ）」と呼びます。『かわりばんこ』という言葉はここから生まれています。